



## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 08097996 A

(43) Date of publication of application: 12.04.96

(51) Int. Cl           **H04N 1/32**  
**H04N 1/00**  
**H04N 1/44**

(21) Application number: 06232585

(71) Applicant: RICOH CO LTD

(22) Date of filing: 28.09.94

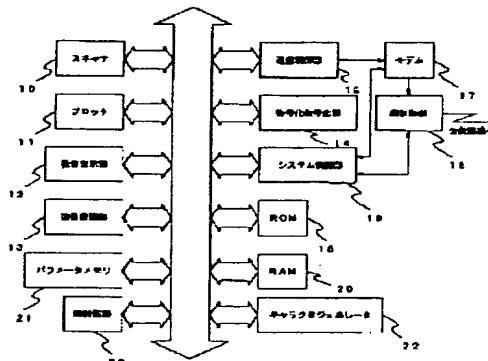
(72) Inventor: HAYAFUNE TAKESHI

## (54) FACSIMILE EQUIPMENT

## (57) Abstract:

PURPOSE: To ease harmful effect due to univocal rejection of reception, receiving image information under certain conditions while rejecting reception of information of undesired source document, by receiving image information even if a specified sender is an unregistered one in the case where the value of count reaches a prescribed one.

CONSTITUTION: The facsimile equipment is provided with a reception number count means counting the number of times of reception from a sender when a specified sender is not registered in a sender registration means 21 and with a management information latch means latching identification information and a count through cross-reference, and also with a comparison means comparing the count with a prescribed value, and an image storage means 13 storing the received image information. When the count reaches a prescribed number of times, even when the specified sender is not registered in the sender registration means 21, the image information is received and stored in the image storage means 13. Thus, a defect of definite reception reject is relaxed while preventing occupancy of a memory.





送信元から送出されてくる識別情報を基づいて送信元を受信許可対

特定する送信元検出手段と、特定された送信元が上記送

信元登録手段に登録されているか否かを判別する受信可

否判別手段とを備え、特定された送信元が上記送信元登

録手段に登録されていない場合には、圖情報の受信を拒

否するファクシミリ装置において、特定された送信元が

上記送信元登録手段に登録されていない場合、当該送信

元からの受信回数を計数する受信回数計数手段と、上記

識別情報と上記計数値とを対応付けて保持する管理情報

保持手段と、上記計数値と所定値とを比較する比較手段

と、受信した圖情報を蓄積する圖像蓄積手段とを備え、

上記計数値が所定回数に達した場合には、特定された送

信元が上記送信元登録手段に未登録の送信元であっても

圖情報を受信し上記圖像蓄積手段に保持することを特徴

とするファクシミリ装置によって達成される。

[0006] 更に、上記目的は、受信を受付ける送信元

を登録する送信元登録手段と、回線接続部、送信元から

送出されてくる識別情報を基づいて送信元を特定する送

信元検出手段と、特定された送信元が上記送信元登録手

段に登録されているか否かを判別する受信可否判別手段

と備え、特定された送信元が上記送信元登録手段に登

録されていない場合には、圖情報の受信を拒否するファクシミリ装置において、特定された送信元が上記送信元登録手段において、特定された送信元が上記送信元登録手段に登録されていない場合には、圖情報を受信し上記圖像蓄積手段に保持することを特徴とするファクシミリ装置によって達成される。

[0007] 4更に、上記目的は、受信を受付ける送信元を登録する送信元登録手段と、回線接続部、送信元から送出されてくる識別情報を基づいて送信元を特定する送信元検出手段と、特定された送信元が上記送信元登録手段に登録されているか否かを判別する受信可否判別手段と備え、特定された送信元が上記送信元登録手段に登録されていない場合には、圖情報を受信し上記圖像蓄積手段に保持することを特徴とするファクシミリ装置によって達成される。

[0008] 5更に、上記目的は、受信を受付ける送信元を登録する送信元登録手段と、回線接続部、送信元から送出されてくる識別情報を基づいて送信元を特定する送信元検出手段と、特定された送信元が上記送信元登録手段に登録されているか否かを判別する受信可否判別手段と、上記計数値と所定値とを比較する比較手段と、受信した圖情報を蓄積する圖像蓄積手段とを備え、上記計数値が所定回数に達した場合には、特定された送信元が上記送信元登録手段に未登録の送信元であっても圖情報を受信し上記圖像蓄積手段に保持することを特徴とするファクシミリ装置によって達成される。

[0009] 6更に、上記目的は、受信を受付ける送信元を登録する送信元登録手段と、回線接続部、送信元から送出されてくる識別情報を基づいて送信元を特定する送信元検出手段と、特定された送信元が上記送信元登録手段に登録されているか否かを判別する受信可否判別手段と、上記計数値と所定値とを比較する比較手段と、受信した圖情報を蓄積する圖像蓄積手段とを備え、上記計数値が所定回数に達した場合には、特定された送信元が上記送信元登録手段に未登録の送信元であっても圖情報を受信し上記圖像蓄積手段に保持することを特徴とするファクシミリ装置によって達成される。

[0010] 7更に、上記目的は、受信を受付ける送信元を登録する送信元登録手段と、回線接続部、送信元から送出されてくる識別情報を基づいて送信元を特定する送信元検出手段と、特定された送信元が上記送信元登録手段に登録されているか否かを判別する受信可否判別手段と、上記計数値と所定値とを比較する比較手段と、受信した圖情報を蓄積する圖像蓄積手段とを備え、上記計数値が所定回数に達した場合には、特定された送信元が上記送信元登録手段に未登録の送信元であっても圖情報を受信し上記圖像蓄積手段に保持することを特徴とするファクシミリ装置によって達成される。

[0011] 8更に、上記目的は、受信を受付ける送信元を登録する送信元登録手段と、回線接続部、送信元から送出されてくる識別情報を基づいて送信元を特定する送信元検出手段と、特定された送信元が上記送信元登録手段に登録されているか否かを判別する受信可否判別手段と、上記計数値と所定値とを比較する比較手段と、受信した圖情報を蓄積する圖像蓄積手段とを備え、上記計数値が所定回数に達した場合には、特定された送信元が上記送信元登録手段に未登録の送信元であっても圖情報を受信し上記圖像蓄積手段に保持することを特徴とするファクシミリ装置によって達成される。

行う(ステップ301)。以降、本実施例では上記NS

Sで送出される送信元識別情報を例に説明するが、

送信元識別情報をとては、上記NSSの他にTSI(送

信機未識別信号)やボーリングIDを用いることも可能

であり、要是不特定多数の送信元を個別に識別できるよ

うことができる。

[0012] 同様において、10は所定の線密度で原稿

を読み取るスキャナであり、11は記録すべき圖情報を

レーザー書き込み系を用いた電子、写真方式或いは熱感記録

方式等で記録紙面に記録するプロッタである。12

は各種操作キーとディスプレイを備えた表示部であ

り、オペレーターが各種の情報や指示を操作入力と共に

オペレーターに対して種々のサイアンズ情報を表示す

るものである。又、13は圖情報を蓄積する圖像

蓄積部、14は公知の符号化方式にて圖情報を圧縮符号

化する一方、圧縮符号化されている圖情報を再生復号化

する符号化復号部、15は自動発着信能を備え、呼出し

1/F機能を有する網制御部、16は通話相手と1-TU

-T端子T、30等の所定の伝送制御手順を実行する通

信端子部、17は伝送制御手順信号をやりとりするため

の低速モードと、主として圖情報をやりとりするための

高速モードを備えたモードである。更に、18はシステム制御部に必要なプログラムが格納されたROM、19は

ROM-8のプログラムに従ってファクシミリ装置全体

を制御するシステム制御部、20はシステム制御部19

のワーカエリアを構成するRAM、21は不図示のバッ

テリーでバックアップされ、ファクシミリ装置の制御に

必要な各種パラメータ、例えば、送受信の結果や送受信

のワープロの枚数、圖情報の受付NO。などが格納される

パラメータモリ、22は操作表示部12のディスプレー

上記の文字表示やプロック11からの各種レポート、

リストの出力際に際して圖情報をバターン情報に変換

するキャラクタジェネレータ、23は日時や所定期間の

計時を行う計時回路である。

[0013] 次に、本発明の動作を図3のフローチャー

トと、図2を参照しながら詳述する。尚、図3における各ステップは、特に説明がない限りシステム制御部19

によって実行されるものとする。

[0014] 図3において、網制御部15が音響を検出

すると回線を開閉し、通信制御部16がモード17を介

して送信元と伝送制御手順を開始する。ここでは、伝送

制御手順の一例としてITU-T勧告T.30を例に説

明するが、かかる動作 자체は既に公知であるため、こ

れを省略して述べる。

では本実施例に觸れる部分のみの説明に留める。伝送

制御手順において、送信元からNSS(非標準機能設定

信号)が送出されるため、その中に含まれている送信元

最終受信日時から一定時間以上経過したか否か判別する

方法の他に、単位時間当たりの平均受信回数や各受信回

の送信元に関する送信元識別情報、最終受信日時、

平均時間間隔に基づいて判断することも可能である。

又、ステップ309における所定回数は、通常ファクシ

ミリ装置は送信未達となつた場合に3回ほど自動的に

複数例を示すブロック図である。

[0015] 次に、確認された送信元がハラメータメモ

リ2.1内に設定された受信可能送信元データーブルに登録さ

れており、要は不特定多数の送信元を個別に識別できるよ

うことができる。

[0016] 一方、確認した送信元が受信可能送信元データーブルに登録されていない場合には(ステップ302N)

更新し(ステップ310)、送信元から圖情報を受信し

て回線蓄積部13に一旦蓄積する(ステップ311)。

この受信圖情報は例えブロック11が印字動作可能な状

態であっても、直ちに印字出力せず、オペレーターの判断

を仰ぐために図4に示例したようなレポートをブロック

11から印字出力する(ステップ312)。図4に示し

たように、同レポートの上部には前述する管理情報が表

示され、下部には回線蓄積部13から読み出された受信

圖情報の一部(例えは、先頭ページの一部)が表示され

る。このレポートを見たオペレーターは、レポート下部に

表示された受信圖情報の内容をそのままの上側に表示された送

信元名等を参照することによって印字出力の要否を判断

する。次に、印字出力部には当該受信出力の要否を判断

できる、更に、レポート上部には当該受信出力の要否を判断

する際の操作手順、消去する際の操作手順、当該送信

元を受信可能送信元データーブルへ登録する際の操作手順が併せてオーダンスとして示されている。尚、レポート上

部の文字情報は、システム制御部19が管理データーブル及

びパラメータモリ21から必要な情報を取り出すと共に

に、時計回路23からの現在日時を読み出し、これらの

コード情報をキャラクタジェネレータ22でバターン情

報に変換して作成することができる。又、操作表示部1

2のディスプレイが比較的大画面の表示領域を備えてい

れば、レポートの印字に代えてディスプレイを用いるこ

とも可能である。

[0017] 再び図3に戻り、送信元が管理データーブルに登録されている場合には(ステップ305YES)、該

当する送信元の最終受信日時を確認し、時計回路23による現在日時と比較して最終受信日時から一定時間以

上経過している場合には(ステップ306NO)、同送

信元の受信回数欄をセリットして“0”に戻した(ステ

ップ307)上で新たに受信回数“1”を登録する(ステップ308)。又、一定時間内であれば(ステップ309)、0.6YES)、ステップ307をスキップして受信回数を1つカウントアップする(ステップ306NO)。長い

間隔で受信回数欄が所定回数以上達成しない場合は(ステップ309)、所定回数と達成していないければ(ステ

ップ308)、又、一定時間内であれば(ステップ309)、0.6YES)、ステップ307をスキップして受信回数

を1つカウントアップする(ステップ306NO)。長い

間隔で受信回数欄が所定回数以上達成しない場合は(ステ

ップ309)、所定回数と達成していないければ(ステ

ップ308)、又、一定時間内であれば(ステップ309)、0.6YES)、ステップ307をスキップして受信回数

を1つカウントアップする(ステップ306NO)。長い

受信回数欄を全て消去して（ステップ314）ステップ301で確認した新たな送信元を送信元識別情報欄に登録する（ステップ315）。又、管理テーブルに空きがあれば（ステップ313 YES）、ステップ314をスキップして新たな送信元を送信元識別情報欄に登録する（ステップ315）。続いて、受信回数欄に新たに受信回数“1”を登録する（ステップ316）と共に、時計回路2-3を参照して最終受信日時欄に現在の日時を登録し（ステップ317）、編制部1-5が一方的に回線を切断して受信動作を中断する（ステップ318）。

【0021】以上の確認からも明らかのように、本発明では、受信可能送信元テーブルに登録されていない送信元については、受信は拒否するものの管理テーブルに登録しておき、上述したステップ306以降のフローへ移行できる余地を残すようにしている。従って、受信が拒否された送信元が数回再送信を試みると、レポート印字出力の対象となり、オペレータの判断に応じて受信可能送信元テーブルに登録されて次回の送信からは通常受信されることになる。

【0022】ここで、レポートを見たオペレーターが送信元を受信可能送信元テーブルへ登録する際の操作手順を図5のオペレーションフローに従って説明する。同図は操作表示部1-2のディスプレイ表示の様子を示したものである。まず、図4に示したレポートを見たオペレーターが当該送信元を受信可能送信元テーブルへ登録する必要があると判断した場合、図5の①で示された待機状態においてレポート上に元されたガイドインスタンスに従い操作表示部1-2の操作キーを操作してファンクション7-5を入力する。すると、受信可能送信元テーブルへの登録モードとなり、管理テーブルから送信元識別情報が1つ読み出され、キャラクターレーター2-2を介して同送信元の前にディスクライ表示される。表示された送信元が登録すべき送信元と異なる場合、操作表示部1-2のNOキーを押下すると管理テーブルから次の送信元識別情報が1つ読み出され、同図②のようにディスプレイ表示される。同様にしてNOの押下し続けると、サイクリックに送信元が表示され、所望の送信元が表示されている状態で操作表示部1-2のYESキーを押下すると、当該送信元が管理テーブルから読み出されて受信可能送信元テーブルへ転送され、同テーブルに登録されて次回の受信から通常受信の対象となる。又、YESキーを押下して登録操作が終了した後、或いは、YESキーを押下せずにキャンセル操作を行うと、同図④のようにディスプレイ表示は当初の待機状態に復帰する。

【0023】又、図5①の待機状態からファンクション5を入力するとメモリ受信して画像監視部1-3に蓄積されている受信動作が終了した後、或いは、YESキーを押下せずにキャンセル操作を行なうと、同図④のようにディス

力が消去する。尚、印字出力が正常に終了すると画像監視部1-3から該当する受信回数が消去される。以

上の説明からも明らかのように、本発明では、レポートを単なるオペレーターへの通知手段としてだけではなく、レポートの印字出力に伴ってオペレーターが行なわばならない操作についてのガイドインスタンス手段としても利用している。又、所属の送信元を受信可能送信元テーブルに登録する最も、ディスプレイ表示に従ってYESキーを押下するだけで良く、わざわざ1文字ずつ入力する必要もない。

【0024】以上、実施例の説明からも明らかなよう

に、受信可能送信元テーブルが本発明の送信元登録手段に、ステップ301における送信元の確認が送信元検出手段に、ステップ3-02における判別が受信可否判別手段に、ステップ3-08及びステップ3-16における計数が受信回数計数手段に、管理テーブルが管理情報保持手段に、ステップ3-09における比較が比較手段に、画像監視部1-3が画像監視手段に、夫々相当するものである。又、通知手段は、ブロック1-1成いはディスプレ

イ、システム制御部1-9、管理テーブル、パラメータモリ2-1、キャラクターシェーラー2-2が上述したよう

な相互関係を有することによって構成するものである。

【0025】【発明の効果】請求項1記載の発明では、受信許可対象

外となっている送信元からの受信を拒否し、メモリに蓄

積することもないため、ダイレクトメール等の不要な原

稿情報による回線やメモリの占有を低減すると共

に、例え受信許可対象外の送信元であっても、同一送信

元からの受信回数が所定値に達した場合は、受信回数

の受け付けけてメモリを効率的かつ一概的に受信拒否による弊害を緩和

することができる。

【0026】請求項2記載の発明では、受信許可対象外

となる他の送信元からの回情報もメモリ受信したこと

をオペレーターに通知するため、本来必要な回情報がメモ

リ内に保持されたまま放置されることを防止でき、仮に

保持した受信回数が不要なものであれば、直ちに消去

の操作を行なうことができる。

【0027】請求項4記載の発明では、メモリ受信した

回情報の印字出しは消去の操作手順を併せて通知するた

め、通知内容を確認したオペレーターが消去の操作

に係る操作を行なうことができる。

【0028】本発明が適用されるファクシミリ装置のプロ

セス【図1】本発明におけるファクシミリ装置のプロ

セス【図2】本発明における管理テーブルの一例を示した

【図3】本発明の動作を示すフローチャート。

【図4】本発明におけるレポートの出力例を示した。

【図5】本発明におけるオペレーションフローを示した

【符号の説明】

10 スキヤナ

11 ブロック

12 操作表示部

13 画像監視部

14 符号化復号化部

15 編制部

16 通信制御部

17 モデム

18 R.O.M

19 システム制御部

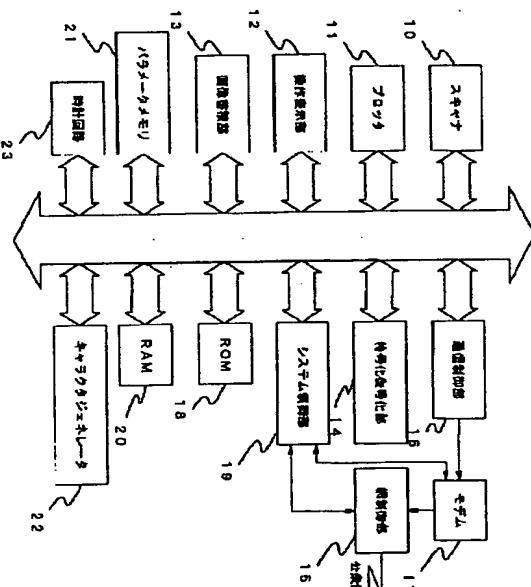
20 RAM

21 パラメータメモリ

22 キャラクタジェネレータ

23 時計回路

易な操作で登録を行なうことができ、次回からは通常通り回情報を受信することができる。



【図1】

【図2】本発明における管理テーブルの一例を示した

【図3】本発明の動作を示すフローチャート。

【図4】本発明におけるレポートの出力例を示した。

【図5】本発明におけるオペレーションフローを示した

【符号の説明】

10 スキヤナ

11 ブロック

12 操作表示部

13 画像監視部

14 符号化復号化部

15 編制部

16 通信制御部

17 モデム

18 R.O.M

19 システム制御部

20 RAM

21 パラメータメモリ

22 キャラクタジェネレータ

23 時計回路

24 フローチャート

25 フローチャート

26 フローチャート

27 フローチャート

28 フローチャート

29 フローチャート

30 フローチャート

31 フローチャート

32 フローチャート

33 フローチャート

34 フローチャート

35 フローチャート

36 フローチャート

37 フローチャート

38 フローチャート

39 フローチャート

40 フローチャート

41 フローチャート

42 フローチャート

43 フローチャート

44 フローチャート

45 フローチャート

46 フローチャート

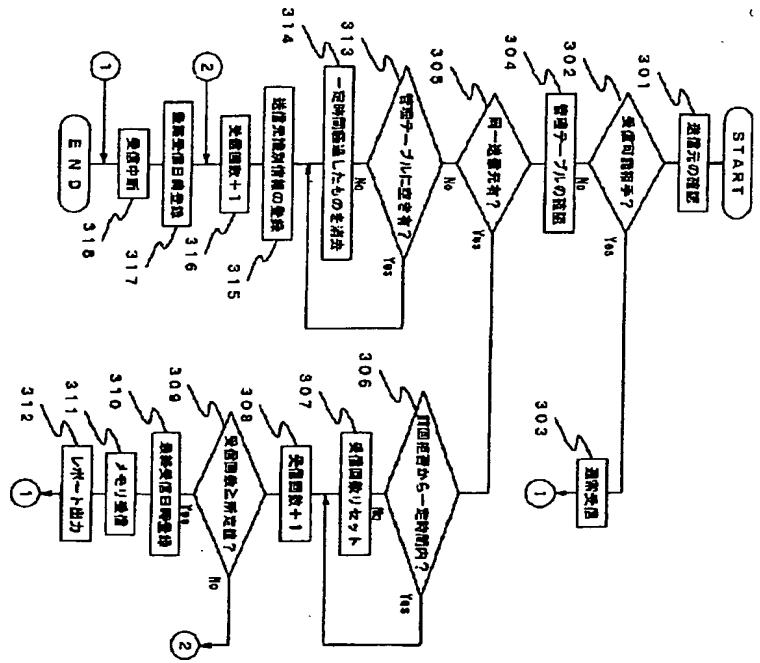
47 フローチャート

48 フローチャート

49 フローチャート

50 フローチャート

[図3]



[図4]

**規定相手先外受信レポート（1994年4月1日12時31分）**													
以下のファイルを規定相手先以外から受信しました。 ファイルの印字出力はファンクション56で可能です。 ファイルの消去はファンクション25で可能です。 受信可能相手先への登録はファンクション75で可能です。													
受付No. モード 送信元 結果 ページ数 050 メモリ登録 トウキョウホンテン OK 5枚													
<p style="text-align: right;">1994. 4. 1</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">営業部営業3課 苗田 誠</td> <td style="width: 50%;">東京本店統括部 佐々木</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">件名：売上上位伝票の送付依頼</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">_ いつもお世話になります。さて、補記の件につき、 至急伝票のとりまとめが必要となりました。 ついては、下記の要領で至急売上上位伝票を当方 まで送付してください。</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">記</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(1) 売り上げ期間 1994. 3. 1~3. 31</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(2) 希望納期 1994. 4. 5</td> </tr> </table>		営業部営業3課 苗田 誠	東京本店統括部 佐々木	件名：売上上位伝票の送付依頼		_ いつもお世話になります。さて、補記の件につき、 至急伝票のとりまとめが必要となりました。 ついては、下記の要領で至急売上上位伝票を当方 まで送付してください。		記		(1) 売り上げ期間 1994. 3. 1~3. 31		(2) 希望納期 1994. 4. 5	
営業部営業3課 苗田 誠	東京本店統括部 佐々木												
件名：売上上位伝票の送付依頼													
_ いつもお世話になります。さて、補記の件につき、 至急伝票のとりまとめが必要となりました。 ついては、下記の要領で至急売上上位伝票を当方 まで送付してください。													
記													
(1) 売り上げ期間 1994. 3. 1~3. 31													
(2) 希望納期 1994. 4. 5													

[図5]

